

【令和3年度 美術科授業改善推進プラン】

美術科で身に付けさせたい力・目指す生徒像

- ・造形を捉える多様な視点もち、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わることができる。
- ・発想や構想と鑑賞の双方に働く中心となる考えを理解し、それと関連させながら考え、判断し、表現できる。

学習状況及び課題

	1 学年	2 学年	3 学年
学習状況	・授業単位また課題全体に対して、まだ見通しをもって取り組むことができない生徒が多い。 ・聞く力の弱い生徒が比較的多い。	・造形活動にのびのび取り組む生徒が多い。 ・表現技能が、イメージしていることに追いつかず、早い段階で作品の質の向上をあきらめてしまう生徒が多い。	・2年間の積み重ねにより、楽しく造形活動に取り組んでいる。 ・想起したイメージを明確にし、意図したことが効果的に伝わるように作品に工夫を加えていく粘り強さに物足りなさを感じさせる生徒がまだ多い。
指導上の課題	・授業のねらいを分かりやすくできるだけ短い時間で示すこと。 ・振り返りを主体的、習慣的に行えるようにすること。	・授業のねらいを分かりやすくできるだけ短い時間で示すこと。 ・振り返りの質（次に必要なことは何かを考える）を高めること。	・課題の取組時に造形的視点を意識させること。 ・自分の表現に自信をもたせること。

改善プラン

	1 学年	2 学年	3 学年
学習面	・共通事項を大切にし、造形的な視点を意識させる。 ・表現と鑑賞が連動した課題への取組となる授業構成を行う。 ・授業カードによる振り返りを行い、見通しをもって取り組むことを強く意識させる。	・課題の主題を明確に表現するためのアイデアスケッチをできるだけ多く描かせる。 ・造形的な視点を示し、その視点から自他の作品について意見を交換する批評会を行う。	・アイデアスケッチの段階で造形的視点から必要、不必要を判断して作品の構成をじっくり考えさせる。 ・造形的な視点を示し、その視点から自他の作品について意見を交換する批評会を行う。
指導面	・題材における授業のねらいを毎時間明確に短時間で示す。 ・準備、片付けを効率化し、作業時間を可能な限り増やす。 ・題材のねらいをふまえた授業の振り返りをどのようにするかを具体的に示す。 ・大切なことは、繰り返し言い、視覚的にも示す。 ・鑑賞等、PC端末を積極的に活用する。	・参考作品提示によりモチベーションを高める。 ・批評会では、必ず良いところを見付けさせる。 ・授業の振り返りは、毎時間行うが、課題取組の工程上ポイントとなる何回かの振り返りには、十分時間を取って記述させる。 ・鑑賞等、PC端末を積極的に活用する。	・発想を広げ、イメージの明確化を図るための資料を準備させる。 ・作品を仕上げていく中で、イメージを重ねる、余分なものは何か、それをどのように削り落とし、何を加えるか等、試行錯誤することに重点をおく。 ・批評会により自分の表現に自信をもたせる。 ・鑑賞等、PC端末を積極的に活用する。

評価

- ①授業アンケート結果による達成度評価
- ②定期テスト観点別学習状況による評価
- ③学習プリント及び作品

